

# 安全データシート

## ニトロセルロース（メンブレン）

改訂日 2022 年 12 月 26 日

### 1. 化学品及び会社情報

製品名	HEALGEN COVID-19 抗原迅速テスト、HEALGEN COVID-19 抗原迅速テスト（試用品）
該当コンポーネント名	テストカセット
会社名	タカラバイオ株式会社
住所	〒525-0058 滋賀県草津市野路東七丁目 4 番 38 号
電話番号	0120-368-080
製品コード	RD006, RD007, RD008
TaKaRa Code	RD006, RD007, RD008

### 2. 危険有害性の要約（以下、濃度を記す項目以外は単一物質について示す）

NITE 統合版 GHS 分類結果に基づく。

#### GHS 分類

物理化学的危険性	<u>危険・有害性項目</u> 爆発物	<u>GHS 分類結果</u> 等級 1.1
健康に対する有害性	<u>危険・有害性項目</u> 特定標的臓器毒性（単回ばく露）	<u>GHS 分類結果</u> 区分 3（麻酔作用）
環境に対する有害性	<u>危険・有害性項目</u> -----	<u>GHS 分類結果</u> -----

注） 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。なお、健康に対する有害性及び環境に対する有害性については、それぞれ後述の 1 1 項及び 1 2 項に「区分に該当しない」または「分類できない」の記述がある。

絵表示：



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 爆発物：大量爆発危険性爆発物、眠気又はめまいのおそれ

注意書き： 【安全対策】  
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
乾燥により爆発危険性が増す場合、製造または運転プロセスに必要な場合を除き、適切な物質にて湿らせておくこと。  
他の容器に移し替えないこと。  
容器を接地しアースをとること。  
粉砕、衝撃、摩擦のような乱暴な取扱いをしないこと。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。  
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。  
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

【応急措置】  
火災の場合：爆発する危険性あり。区域から退避させること。炎が爆発物に届いたら消火活動をしていないこと。  
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪いときは医師に連絡すること。

【保管】  
国または都道府県の規則に従って保管すること。  
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
施錠して保管すること。

【廃棄】  
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	ニトロセルロース（Nitrocellulose）
慣用名又は別名	硝化綿（Nitrocellulose）
CAS No.	9004-70-0
濃度または含有率	>0%, =<0.152%（窒素含有率：12.6%未満）
化学式	(C <sub>6</sub> H <sub>7</sub> O <sub>5</sub> ) <sub>x</sub> (NO <sub>2</sub> ) <sub>10x-y</sub>
官報公示整理番号（化審法・安衛法）	化審法：8-176 安衛法：

#### 4. 応急措置

吸入した場合：	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：	水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合：	水で数分間注意深く洗うこと。目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤：	水噴霧、泡消火剤、乾燥砂類
使ってはならない消火剤：	棒状放水、炭酸ガス、粉末消火剤、ハロゲン化物
火災時の特有の危険有害性：	熱、衝撃、摩擦、及び静電気により爆発するおそれがある。ニトロ化の程度（窒素量）、希釈剤の有無によって、爆発性、発火性が大きく異なるので、留意すること。
特有の消火方法：	区域より退避させること。炎が火薬類に届いたら消火しないこと。
消化活動を行う者の特別な保護具及び予防措置：	炎が火薬類に届いたら退避すること。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	全ての着火源を取り除く。直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止する。一般の人を現場が見えなくなる地点まで移動させ、窓から離れさせる。
環境に対する注意事項：	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法・機材：	漏洩物の除去や廃棄処理は専門家の指示による。
二次災害の防止策：	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

#### 7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い	
技術的対策：	火薬類取締法の規制に従う。
局所排気・全体換気：	火薬類取締法の規制に従う。
安全取扱注意事項：	法規による許可を受けていないものは取扱い禁止。火薬類取締法の規制に従う。熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。粉砕、衝撃、摩擦のような乱暴な取扱いをしないこと。粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
接触回避：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	
安全な保管条件：	火薬類取締法の規制に従う。熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して保管すること。一禁煙。乾燥により爆発危険性が増す場合、製造または運転プロセスに必要な場合を除き、適切な物質にて湿らせて保管すること。国または都道府県の規則に従って保管すること。換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。
安全な容器包装材料：	データなし

#### 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：	設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：	日本産業衛生学会（2009年版） ACGIH（2009年版）
設備対策：	火薬類取締法の規制に従う。消防法の規制に従う。
保護具	
呼吸用保護具：	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具：	適切な保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具：	適切な眼、顔面の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具：	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策：	取扱い後はよく手を洗うこと。

#### 9. 物理的および化学的性質

物理的状態、形状、色など：	固体、白色	臭い：	無臭
pH：	データなし	融点／凝固点：	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲：	データなし	引火点：	13°C：Chapman (2008)
自然発火点：	160～170 °C：Chapman (2008)	可燃性：	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界：	データなし		
蒸気圧：	データなし	相対ガス密度：	データなし
密度及び／又は相対密度：	1.54 (20°C) (nitrogen content 11.5%)：Ullmanns(E) (6th, 2003)		
溶解度：	水：1.00×106mg/L：PHYSPROP Database (2005)		
	メタノール、アセトン、氷酢酸、酢酸アミル：	可溶：	Merck (14th, 2006)
	エタノール、エーテル-エタノール（窒素含有量10.5～2.3%）：	可溶：	有機化合物辞典 (1985)
	アセトン、酢酸ベンジル（窒素含有量12.5～13.5%）：	可溶：	有機化合物辞典 (1985)
n-オクタノール/水分配係数（log値）：	データなし	分解温度：	データなし
動粘性率：	データなし	粒子特性：	データなし

#### 10. 安定性及び反応性

反応性：	情報なし。
化学的安定性：	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性：	乾燥すると自然発火する。燃焼すると急速に分解し、窒素酸化物を生成し、火災や爆発の危険をもたらす。酸化剤、塩基、酸と反応する。
避けるべき条件：	乾燥、燃焼。
混触危険物質：	酸化剤、塩基、酸。
危険有害な分解生成物：	窒素酸化物

## 11. 有害性情報

急性毒性：	経口：ラットLD50 >5000mg/kg（PATTY (5th, 2001)）に基づき区分に該当しないとした。 経皮：データなし。 吸入：吸入（ガス）：常温で固体である。 吸入（蒸気）：データなし。 吸入（粉じん）：データなし。
皮膚腐食性／刺激性	：データなし。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：データなし。
呼吸器感作性	：データなし。
皮膚感作性	：データなし。
生殖細胞変異原性	：データなし。
発がん性	：データなし。
生殖毒性	：データなし。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：経口摂取による中毒は、発現が速く持続時間が短いことを除きエタノールと類似しており（HSDB（2003））、吸入した場合はめまい、多幸感、中枢神経系の抑制、または、呼吸困難、意識喪失を起こす可能性があるとの記載（HSDB（2003））に基づき、区分3（麻酔作用）とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：データなし。
誤えん有害性	：データなし。

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）	：藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）での96時間EC50 = 579000 $\mu$ g/L（AQUIRE, 2010）であることから、区分に該当しないとした。
水生環境有害性 長期（慢性）	：難水溶性でなく（水溶解度=1.00 $\times$ 106mg/L（PHYSPROP Database、2005））、急性毒性が低いことから、区分に該当しないとした。
残留性・分解性	：情報なし。
生体蓄積性	：情報なし。
土壤中の移動性	：情報なし。
オゾン層への有害性	：当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装：	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない
UNNo.	該当しない

### 国内規制

陸上規制情報	消防法の規制に従う。
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない

### 特別安全対策：

移送時にイエローカードの保持が必要。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

毒物及び劇物取締法：	該当しない
労働安全衛生法：	名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）、名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条、施行令第18条別表第9）、危険物・爆発性の物（施行令別表第1第1号）
化管法（PRTR法）：	該当しない
消防法：	第5類自己反応性物質、硝酸エステル類（法第2条第7項危険物別表第1・第5類）
麻薬及び向精神薬取締法：	該当しない
航空法：	該当しない
船舶安全法：	該当しない

## 16. その他 引用文献等

参考文献	各データ毎に記載した。
------	-------------

### 購入者への注意事項：

弊社製品は体外診断用医薬品です。それ以外の目的で使用しないでください。弊社から事前に書面による承認を得ることなく弊社製品を第三者へ譲渡、再販、再販目的で改変すること、または商品製造もしくは第三者へのサービス提供に使用することはできません。製品ウェブ・ページに記載されているライセンス要件の遵守は、この製品の使用に対しても適用されます。これらの記載事項により課されている全ての制約事項を検討、理解して遵守することは、使用者各位の責務です。他の全ての商標は、それぞれの所有者に帰属します。特定の商標は、全ての法的管轄区に登録されていない場合があります。